

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 10

2020年3月12日発行

3月の聖句 『光の子として歩みなさい』(エフェソの信徒への手紙5章8節)

この私という存在が、神によって根底から肯定され受容されている。大切な存在として。聖書は、その事柄をいろいろな表現を用いて語ります。

聖パウロは「…主(イエスさま)に結ばれて、光となっている」と語りました。その事柄を実感できたらどんなによいでしょう。

人は誰しも、否定的な言葉によって傷つき、不安や恐れを抱きます。そして、傷ついた者は、交わりを破壊する力をうちに蓄えて行きます。それに対して、肯定と祝福の言葉は人を生かします。

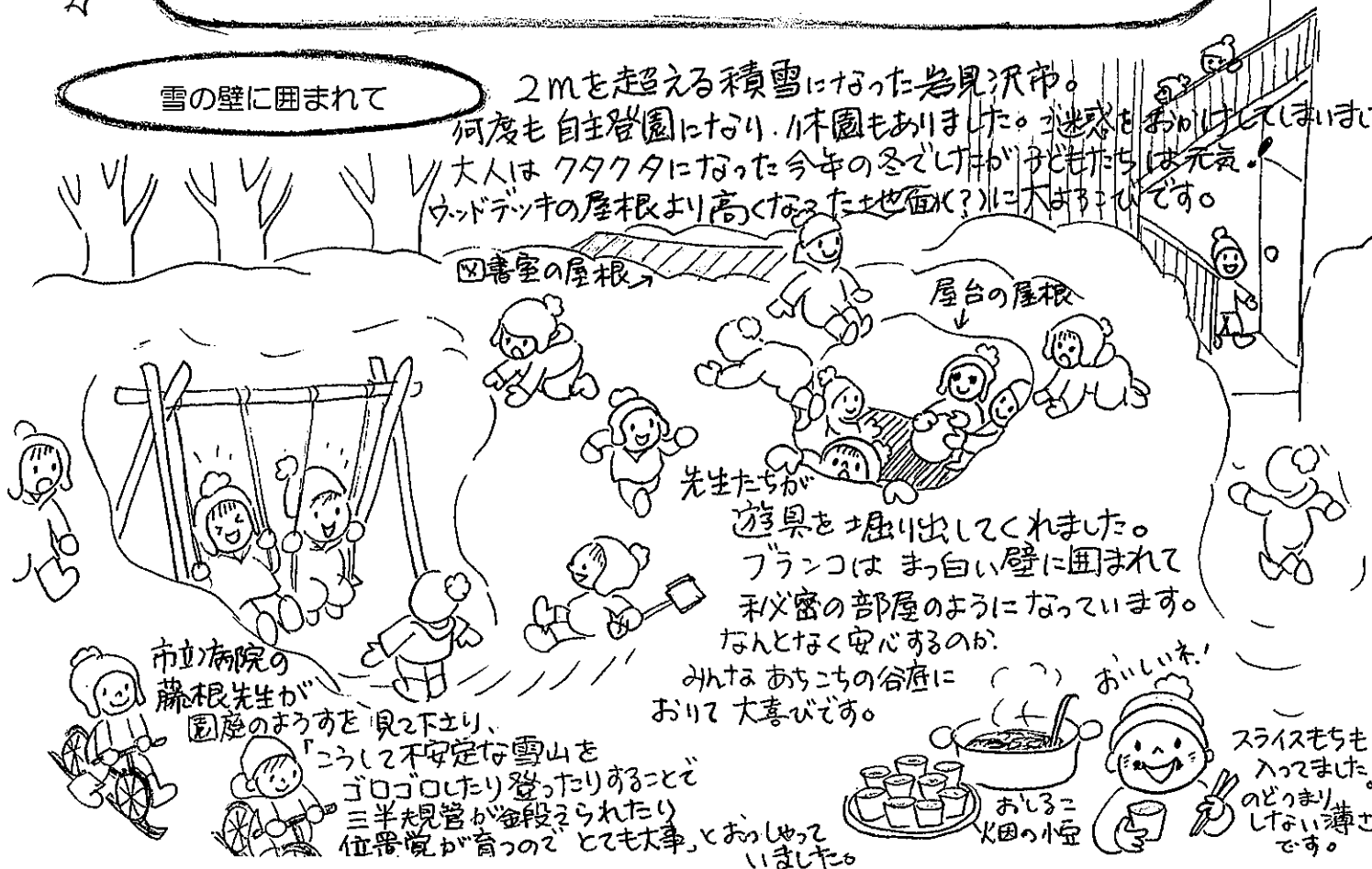
イエスさまは私たちを、ゆるし、受け容れてくださる、そのような根源的祝福を与えてくださいます。根源的祝福は人の交わりに和解もたらし、いのちをあたえます。

ことに聖十字幼稚園の卒園児の一人、お一人にイエス様の祝福を祈ります。光の子として、新しい歩みを踏み出すお友達に。

(チャプレン 司祭いけだとおる)

雪の壁に囲まれて

2mを超える積雪に悩んだ岩見沢市。何度も自主登園になり、休園もありました。迷惑をおかけしてはいます。大人はクタクタになった今年の冬でしたが、子どもたちは元気。ウッドデッキの屋根より高くなった地面(?)には大苦戦です。



先生たちが遊具を掘り出してくれました。ブランコは真っ白い壁に囲まれて秘密の部屋のようになっています。なんとなく安心するの。みんなあちこちの谷底において大喜びです。

スライスもちも入ってました。のどまりげない薄皮です。

市立病院の藤根先生が園庭のようすを見下され、「こうして不安定な雪山をゴロゴロたり登ったりするのは三半規管が鍛えられたり、位置覚が育つのでとても大事、とおっしゃっていました。

3月1日は年長さんの洗足式でした。

2000年を前のこと。

洗足式

「先生がおくちの口の『最後の晩餐』のとき12人の弟子が『誰が弟子の中で一番偉いか』と話し合っていると、イエス様が立ち上がり、腰にてぬぐいをまいて、たらいに水を入れ、弟子の足を洗いおぼめたのです。

当時、足を洗うのは奴隷の仕事だったので、弟子たちはびっくり。「あなたがたは私のことを『先生』とか『主』と呼ぶ。主であり師である私があなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗わなければならぬ」とイエス様は言い、全員のを洗ってくれたそうです。「一番偉い人は一番若い者のようにたらい、上に立つ人は、イエス様のようになりなさい」



フォード・マドックス・ブラウン作



イエス様は言われました。私があなた方を大切にしたいようにおたがいを大切にしたい。父と子と聖霊によってアーメン

洗足式にはお互いを大切にしたいという願いがこめられています。チャプレンがひとりひとりの足を布で拭きながらお祈りして下さいました。

1年の茶道の締めくくり

コロナ対策で1クラスを4組に分けて2日間行いました。



2月18日、19日は年長さんの茶道のまとめ。お父さんお母さんをお招きしてお茶会です。

毎回のおけいも人数が多かったので回数としては少なめだったのにとても楽しめて覚えていって良かったです。

みんなは背筋をピンと伸ばして顔もいつもよりきりっとして緊張感と嬉しさで輝いていました。

作本 宗久先生 コロナの中で工夫して下さり感謝です。

「みんなにきちんとできることに感謝文を書きました。1列年よりゆたたりと子どものおうすをお見れました」と

涙のお別れ会

3月5日、昨年ではできなかったお別れ会がありました。今年この日初めて、全員でホールに集まることのできたのです。各クラスで練習していた歌もとっても上手で、心にしみました。卒園するお兄さんお姉さん、そして退職するかなえ先生とみずき先生との別れを惜しんで、みんな涙、涙のお別れでした。こんなに小さくても、心と心がつながりあう体験をしているみんなを、とても嬉しく感じました。

保護者の皆様、今年は世界中が大変な年でしたが、それでも変わらず、子どもたちや先生たちを温かく見守って頂き、本当にありがとうございました。

感想を頂きました。